「モーセの歌（Ⅰ）」

──申命記第32章1～43節──

（『旧約知識』第??号より転載）

小池辰雄

**試訳**（ＭＴ本文のまま）〔ＭＴ--the Masoretic Textマソラ本文の略〕

１．天よ、　　耳傾けよ、　　我れ語らんとす。

 地よ、　　聴くべし　　我が口の言葉を！

２．わが教え　　雨の如く　　降り、

 わが言葉　　露の如く　　こぼれん。

　　若草の上に〔かかる〕　　の　　如く、

 青草の上に〔そそぐ〕　　白雨の　　如し。

３．そは我れヤーウェーの　　聖名を　　ぶべければ、

 汝ら我らの神に　　偉大を　　帰せよ！

４．なるかな！　　そのみわざは　　全し、

 そは　　その道はみな　　正しければなり。

 真実の　　神にして　　不義なく、

 しくして　　直きかな　　彼は！

５．〔真実なき者ら　　彼を　　瀆し〕

 彼に　　これは害をなし、　　その汚しごと〔の故〕　　その子らに非ず。

 にして　　曲れる　　なり。

６．汝らはヤーウェーに　　此の如く　　報いんとするや、

 愚かにして　　智慧　　なき民よ！

 彼こそは　　汝の父にして　　汝を贖い、

 彼こそは　　汝を作り　　汝をえ給いしに非ずや！

７．汝りにし　　日(日)を　　憶え、

 汝ら世々の　　年(年)を　　わきまえ知れ！

 汝の父に　　問え、　　然らば汝に告げん、

　 汝の老いたる者らに〔たずねよ〕、　　然らば汝に　　語らん、

８．　　諸々のに　　所領をち給いし時、

 人の　　子らを　　彼れ散らし給いし時、

 諸々の民の　　を　　定め給えり

 イスラエルの　　子らの　　数に従いて。

９．そはヤーウェーの　　分は　　その民にして

 ヤコブは　　その所領の　　縄張なれば。

10．彼はこれを荒野の　　地に　　見出だし給えり、

 え声のする　　わびしき　　曠野に。

 彼これを　　〔か〕と囲み、　　これを〔深く〕顧み、

 おのが眼の　　の如く　　これを護り給えり。

11．鷲の　　その巣を　　看守り

 その　　雛の上を　　飛びめぐり、

 その羽を　　拡げて　　これを　　え、

 その　　翼に載せて　　これをらす如く！

12．ヤーウェーは　　独りにて　　彼を導き

 あだし神は　　これと共に　　有らざりき。

13．彼は地の　　高き処を　　これをして乗り越えしめたり。

 これは野の　　を　　いたり。

 彼は石の中より　　これに野蜜を　　吸わしめ、

 堅き　　より　　油を。

14．牛の　　〔濃き〕乳、　　羊の　　乳、

 更にはの　　を、

 また牡羊、　　バシャンの仔ら、　　牡山羊、

 更には小麦の　　内なる脂を、

 また葡萄の血なる　　酒を　　汝は飲めり。

# 「モーセの歌（Ⅱ）」

──申命記第32章1～43節──

（『旧約知識』第??号より転載）

小池辰雄

　**試訳**

15．然るにｲェシュルーンは　　肥えて　　地響きをさせ、

 汝は肥え　　太りて　　飽くまで喰う。

　　おのれを造りし　　神を　　棄て、

　　　　　おのが救の　　巌を　　せにす。

16．彼らはをもて　　彼を　　ませ、

　　　　　わしきらもて　　彼を怒らす。

17．彼らはどもに　　を捧ぐ、　　神には非ず、

　　　　　彼らの知ら　　ざる　　神々なり。

　　近頃　　現われし　　新参者にして

 汝らのたちの　　畏れし者に　　非ず。

18．汝を生みし　　巌を　　汝はんじ、

 汝をび出だせし　　神を　　汝忘れたり。

19．ヤーウェーは　　観て　　棄て給いしぞ、

 その　たちを　　腹立たしく思い給いて。

20．彼曰い給わく、　　「我れわが顔を　　彼らより　　隠さん、

 彼らのは　　如何なるかを　　我は視ん。

　　彼らは　　ける　　にして

　　　　　その中に　　なき　　子らなればなり。

21．彼らは　　神ならぬ者をもて　　我を妬ませ、

　　　　　彼らの　　しきをもて　　我を怒らす。

 されば我れ　　民ならぬ者をもて　　彼らを妬ませ、

 愚かなる　　民をもて　　彼らを怒らせん。

22．然りわがによりて　　　　燃えち、

 深き　　にまで　　焼けいたらん。

 また地と　　そのとを　　い、

 山々の　　を　　燃やさん。

23．我れ諸々のを　　彼らの上に　　積み重ね、

　　　　　わがをば　彼らに向かって　　射尽くさん。

24．飢えのため　　せ、

 衰えん　　と　　悪しき　　に。

　　の　　歯牙を　　我れ彼らにけ、

 を　　うものの　　毒をも加えん。

25．外より　　刀剣　　身内を奪わん、

 内　　よりは　　恐怖が、

　　をも　　をも

 をも　　髪白き　　人をも共に。

26．我れ言うならん、　　我彼らを　　吹きい、

 人をして　　彼らをゆることを　　めしめんと、

2Z．若しの　　を　　るるに及ばずば、

 〔即ち〕この者ら　　彼らのを　　見誤るなく、

 言うことなくば、　　我らの手　　ちしなり、

　　　　　これはみな　　ヤーウェーの　　なせるに非ずと。

28．彼らは　　智謀を失える　　民にして、

 その中に　　　　なければ。

29．若し彼ら智慧あらば、　これを　　悟り、

 彼らの　　を　　え得べきに。

30．いかにして　　一人にて千人を　　追い、

　　　　　二人にて　　万人を　　散らし得ん、

　　彼らの巌　　彼らを　　売り、

　　　　　ヤーウェー　　彼らを渡すこと　　なかりせば。

31．そは彼らの巌は　　我らの巌に　　如かず、

　　　　　我らの　　敵どもも　　〔しかく〕むればなり。

32．げに彼らの葡萄樹は　　ソドムの　　葡萄樹より

　　　　　ゴモラの　　栽培地　　よりのもの、

　　彼らの葡萄は　　毒　　葡萄にして

　　　　　苦き　　葡萄の房は　　彼らのもの。

33．彼らの葡萄は　　蛇の　　毒、

　　　　　の　　猛　　毒。

34．これは　　わがもとに　　隠され、

 わが　　に　　封じ込めあるに非ずや。

35．我には　　あり　　あり、

 彼らの脚の　　よろめかん。

 即ち彼らのの　　日は　　近く、

 彼らのため　　備えられしこと　　やかに到らん。」

36．げにヤーウェーは　　その民を　　き

 その僕らの　　上を　　憐み給わん、

　　そは彼視給えば、　　　去り失せ、

　　　　　置かれし者も　　たれし者も　　既に無ければ。

37．斯くて彼言い給わん、　　彼らの神々は　　何処ぞや、

　　　　　彼らが　（それに）依り頼みたる　　巌は！

38．即ち彼らのの　　を　　喰い、

　　　　　彼らのの　　酒を　　飲みたる者らは！

 それらをしてちて　　汝らを　　助けしめよ、

　　　　　汝らの上に　　　　あらしめよ！

39．汝ら今ぞ見よ、　　我れ、　　我れこそは彼なり、

　　　　　わが傍らに　　神は　　無し！

　　　　　　我は　　殺し　　また活かす、

　　　　　撃ち　　また我は　　す。

　　　　　わが手より　　奪い去り得る者　　有らず｡

40．まことに我れ　　天に向かいて　　わが手を挙げて

　　　　　我は言う、　　我は　　に　　生くと。

41．我れわが　　剣閃を　　鋭くし、

　　　　　わが手　　を　　むとき、

　　我はわが仇ともに　　仇を　　返し

　　　　　我をむ者らに　　をなさん｡

42．我れわがをして　　血に　　酔わしめ、

　　　　　わが剣　　肉を　　喰うべし、

　　貫き剌されたる者、　　捕えられたる者の　　血に、

 敵の　　どもの　　の。

43．諸々のよ、　　彼のを　　歓呼せよ！

 そは　　彼はその僕らの血のため　　を果たし、

 その仇どもに　　仇を　　返し、

 彼の地と　　彼の民とを　　い給えば。

〔**附言**〕

〇左寄りの行はＭＴ原文の行の改まりを示す。強音のある語に応じて、訳文を２字の間隔をもつ語群に区画してみた。それによって知らるる如く、原詩は大方、３強音句２連又は４連を以て１節を構成している。

〇語句の註解、内容の研究は次回から始めるつもり。